

令和7 年度 自己評価・学校関係者評価 結果公表シート

香芝市立認定こども園下田幼稚園

1. 本園の教育目標

しなやかな心と身体 もっともっと学びたい だいすき友達 しもだっこ

- 心身共に健康で、明るく生き生きと活動する子ども
- 友達と仲良く遊び、やさしさと思いやりの心をもった子ども
- 身近な自然に親しみ、生命の尊さに気付き大切に作る子ども
- いろいろな遊びに親しみ、自分なりの言葉で伝える子ども
- 豊かな感性をもち、自分の思いをのびのびと表現する子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

「子どもの育ちと学びをつなぐために」 ～環境構成と援助のあり方について考える～

- 「学ぶ意欲」「豊かな心」「健やかな体」等の「生きる力」の基礎を培う。
- 幼児期にふさわしい環境を整え、自ら考え学ぼうとする意欲・自立していく力「人間力」を高める。
- 集団としての力を高め、目的意識・相手意識をもち課題解決に向けて協力・協同していく。
- 集団としてのマナーやルールに気付き、規範意識を高める。
- 個々のコミュニケーション力を高め、協同する大切さや伝え合う喜びを育てる。
- 主体的に関わり自ら発見・気付き・驚き等を伝え合い、試し考え工夫できるようにする。
- 命の尊さに気付き、自尊心を育む態度と心情を高める。
- こども園と小学校以降の教育を踏まえ、共にめざす育てたい力を明確化し、発達に応じた教育を進める。
- 思いや考えを自己表出できる子どもを育てる。理解して聞く・内容豊かにわかるように話す・友達同士伝え合うことの大切さを学び、どうすればよいのかを考え行動する力を付ける。
- いろいろな人や国の文化に親しみ、深める。

3. 評価項目・評価・取組と達成状況

評価項目	評価	取組と達成状況
(1) 「教育及び保育内容並びに子育て支援等に関する全体的な指導計画」の編成・実施に関して、教職員間の共通理解と保育の充実を図る	B	年度当初、教育課程や教育目標を確認すると共に研究テーマを掲げ、幼児に育てたい10の姿を意識した取組をするため、保育内容を工夫し、園児の実態に合わせて指導計画を立案・実行・評価・改善を行ってきた。保育の振り返りを行い成果と課題を明確にすることで幼児の育ちを共通理解に努めた。今後もきめ細やかに幼児理解に努め、保育内容や環境の工夫を考えていきたい。
(2) 指導力の向上と組織力の強化	A	遊びや幼児理解など日々取り組んでいる内容など学級担任と支援保育教諭の連携の会「分かる会」を行っている。また、学級担任を中心に「保育実践記録」を基に、遊びや活動の中での園児の学びの読み取りながら進めている。一人一人の育ちを確認しながら進めてきた。また、園内研修を通して、互いの保育を参観、意見交流をして保育の向上に努めている。中堅教諭や主幹保育教諭のリードが必要であり、今後も園全体で教育力・組織力を上げることを目標に取り組んでいきたい。
(3) 保護者や地域との連携	A	保育所や小学校との交流をすることができた。保育所とは、互いにねらいを立てるが、気軽な雰囲気です連携をとるように努めた。立地場所が近いこともあり、交流が自然な形でできた。下田小学校とは、5年生に

		絵の本広場に招待していただき、絵本の読み聞かせと一緒に絵本を見ることができた。1年生とは、担任同士の情報交換をしながら交流ができた。今後も計画を立て交流や情報交換に努めたいと考えている。
--	--	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・ 園内研修等をする中で、職員の経験年数が違うことから互いに学べる研修になるように講師を招いて研修を重ねた。保育内容の充実について考え、個々の職員の資質向上に努めてきた。職員の関わりや連携を密にしながら、子どもたちにつけたい力と発達、保育の中で大切にしたいことを意識しながらチーム力を高め保育内容の充実に取り組んでいきたい。 ・ 保護者との連携について、園だより、クラスだより、ホームページ、ホワイトボードの利用、掲示物を活用して園の取組を知らせることに努めてきた。しかし、保護者の方の悩みや願いという面では、園としては保護者に寄り添い進めてきたように思っているが、十分受け止めることができていないところがあった。今後は気をつけていきたい。 ・ こども園のよさを活かしながら、保護者や地域の方々に親しまれ地域に根ざした園づくりをめざし、園の取組や情報の発信を行っていくことができるように努めたい。
--

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
教育の質の向上と教員の指導力	・ 保育環境の見直し、創意工夫 ・ 園内研修の推進 ・ 保育教材の研究 ・ 幼児の内面理解
保護者・地域との連携	・ 保護者、地域への教育内容の発信 ・ 幼稚園、保育所、小学校との交流 ・ 未就園児交流
特別な支援を必要とする園児への援助	・ 特別な支援を必要とする子どもの特性の理解 ・ 一人一人に合った支援方法の研究

6. 学校関係者評価委員会からの意見と今後の改善について

・ 園児の主張をしっかり聞いている。 ・ 先生と子どもたちの距離感が良いと思った。 ・ 頭を使った遊び、体を使った遊び、各学年毎に合わせた遊びをしていてすごく良かった。 ・ 皆が楽しく過ごせる時間を提供し、それを通じて子どもたちが成長している。 ・ 子どもの人数に対して先生の人数もついてくださり行きとどいた指導ができているのが良い。 ・ 職員全体で子どもたち一人一人の発達を見守り、支援しているところがうかがえた。 ・ 大切なことを職員間で伝え合いながらの園経営をこれからもされることを願っている。そして、地域へ幼児教育の素晴らしさをこれからもたくさん伝えてください。 評価委員の方々からいただいたご意見をしっかり受け止め、今後も子どもや保護者が安心して過ごせる園づくりに職員心をひとつにして取り組んでいきたい。
--

※記入に際しての留意点

- 「3. 評価項目・評価・取組と達成状況」は、取組の状況や指標や基準等の内容に基づいた成果、評価の根拠を記入する。なお、評価はA・B・C・Dの4段階で記入する。
- 「4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「3. 評価項目・評価・取組と達成状況」を総合的に評価して記入する。
- 「5. 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。